

2-5. 有識者への意見聴取

(1) 有識者への意見聴取

1) 開催概要

普天間飛行場跡地利用に係る地権者等関係者の意向醸成活動の実施に関する提言・助言等をいただくことを目的に、昨年度と同様計2回実施した。

有識者に関しては、昨年度に引き続き、神谷大介氏（琉球大学教授）、小島肇氏（琉球大学准教授）に依頼した。また、昨年度まで有識者として意見をいただいていた上江洲純子氏（沖縄国際大学教授）の後任として、今年度新たに、中川豪氏（沖縄国際大学講師）を加え、計3名からの意見聴取を行った。

なお、第1回に関しては、神谷氏については日程が合わず個別で実施している。第2回は3者対面による意見聴取を行った。

2) 実施概要

① 第1回

日時	令和7年11月18日（木） 10:00～11:30	令和7年12月17日（水） 10:00～11:00
会場	沖縄国際大学 5号館 6階	琉球大学 地域創生総合研究棟 6階
出席者	沖縄国際大学 中川 豪 講師 琉球大学 小島 肇 准教授 (リモート) 《事務局》 宜野湾市 永山係長、仲本主任主事 UR リンケージ 今村、池戸、片桐	琉球大学 神谷大介 教授 《事務局》 宜野湾市 仲本主任主事 UR リンケージ 今村、片桐
次第	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の合意形成活動の取組内容について ・若手の会見直しの状況について ・来年度以降の当業務の取組内容について 	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ■有識者への意見聴取について <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと61号 ・勉強会資料 ・会則（案）対照表のたたき ・令和6年度 第1回有識者意見まとめ ・令和6年度 第2回意見聴取議事要旨 	

② 第2回

日 時	令和8年1月29日(木) 10:00~11:30
会 場	宜野湾市役所 本館3階
出席者	琉球大学 神谷 大介 教授 琉球大学 小島 肇 准教授 沖縄国際大学 中川 豪 講師 《事務局》 宜野湾市 宮城次長、仲本主任主事 武プロジェクト・マネージャー UR リンケージ 今村、池戸、片桐
次第	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組状況のご報告について ・来年度以降の当業務の取組の具体的内容について
配付資料	■有識者への意見聴取について(第2回) <ul style="list-style-type: none"> ・資料1_地権者及び跡地周辺の市民への取組状況 ・資料2_勉強会結果報告 ・資料3_再構築案検討会議資料

3) 意見概要

【今年度の取組について】

- 小島 肇 准教授
- ・勉強会については、開催日時等いろいろなパターンを想定して設定されているため良いと思うが、初めての人が参加したくなるような仕掛けや声かけが必要。
 - ・資産運用の話は重要ではあるし、今困っている人には響くかもしれないが、内容としては返還時期がもう少し見えてきてからのほうが適しているのではないか。
 - ・たとえば、西普天間住宅地区が返還されて具体的にまちづくりが進んでいるため、そこで今どのような取り組みが行われているか、普天間についても同じような課題が想定されることなどを、現地視察も交えて地権者の方にイメージしてもらう方法がある。
 - ・「勉強会に行けば、何か新しいことが聞けそう、知れそう」というきっかけがあったほうが良い
 - ・先進地視察の内容は地権者や若手の会の方々に還元し、今後に活かしていくべき。
- 中川 豪 講師
- ・勉強会の形式は今後対面だけにこだわらず、デジタルプラットフォームを活用してはどうか。

- ・デジタル庁ではデジタル改革の一環として地方自治体、政府機関の職員のみ入ることができる「デジタル改革共創プラットフォーム」を創設して DX に関していつでも情報発信や悩み事相談などができる場が作られている。ギブアンドテイクで相談しあえる場となり、知り合いが増えるなど、うまく使えている自治体は DX 化の成功につながっている。
- ・地権者に対してもデジタルプラットフォームを提供し、たとえば、まずは自治体側から情報発信をしていき、そのうえで地権者にも取り上げてほしい話題を気軽に発信してもらおうような仕組みがあれば、勉強会テーマ等も事前に決めやすくなるのではないか。プラットフォームを整えておけば今後何年も使える場となり、知り合いが増えることで対面の場への参加につながる可能性も高まる。

神谷 大介 教授

- ・以前、普天間飛行場跡地利用の検討でもコンペを実施したと聞いたが、今地元にいる人が 20 年後も住んでいるかはわからないので、募集対象は県内に限らず、全国的に募集してコンペを開催してはどうか。
- ・普天間飛行場の跡地利用もターゲットは地元であるが、地元だけで発信していてもできることが限られるので、何らかの形で外部の方に関わってもらえる取組をすると良いのではないか。宜野湾市から全国に発信する取組があると良い。
- ・若い人との取組では、普天間飛行場跡地内というよりは将来 20 年、30 年後自分たちが大人になった時、どのようなまちに住みたいかという枠組みで話をできると良い。中南部都市圏のという一つの圏域をどのようなまちにしたいかという考え方ができると良いのではないか。
- ・講座のように手取り足取り教えるよりは、コンペ等の時期を早めに伝えて準備してもらうことが重要。まずは書類審査をし、そこで上位になったら旅費を出して沖縄に来てもらうなど。
- ・小さくスタートする形だと、県内の公共交通データのオープンデータを公開する OTTOP (Okinawa Transit and Tourism Opendata Platform) でのデータ活用ワークショップの取組が参考になる。

【若手の会等について】

- 小島 肇 准教授 ・跡地利用について、宜野湾市近辺に所在する琉球大学や沖縄国際大学の学生が在学中に研究テーマとして取り上げたり、市民の一人として参加する立場になることもある。そういった学生達の活動も認識していただき、若手の会の活動に紐づけられると良いのではないか。
- 中川 豪 講師 ・新市街地ではマンション価格が高騰し県民が住めなくなる状況もある中、ある程度は県内の方、地権者の方が住めるように資産価値をコントロールすることが理想である。
・若手の会にも、将来的な跡地の土地所有者になる年代の方が関わられるような工夫も必要ではないか。
- 神谷 大介 教授 ・コンペ等に若手の会としても参加して提案すると、社会的に発信力がある組織となっていく。例えばコンペが開催された際、参加希望者が行政を介さず、若手の会に情報を聞きにいけるような自立した組織となることが理想的な姿ではないか。
・組織の強化のための会則づくりに加え、活動内容や活動の歴史など、広報等により公的に発信していくことも重要。

【来年度以降の取組内容について】

- 小島 肇 准教授 ・跡地利用の状況は硬直していて、新しい情報を出すことも、こちらから聞き出すことも難しく、手詰まり感がある。もし地主会や若手の会から「こんな活動をやってみたい」という提案が出てくるのであれば、それは積極的に支援して良いのではないか。
・市民活動公募の審査に携わっている経験を踏まえると、テーマを決めて市民からアイデアを募集する方法もある。「地主会や若手の会限定」という形にはせず、市民等から跡地利用に関するアイデアを広く募集し、小額でも活動を支援するやり方があってもよいのではないか。
- 中川 豪 講師 ・勉強会は話を聞くだけより、ある程度の緊張感を持って参加してもらう方がよい。受講者というより「参加者」という位置づけでスライドを作ってもらうなど、会議に関わってもらうような形にすると。その過程で、他の人と集まって話し合ったり協力したりする場面も生まれるはずなので、ただ受け身で参加するよりも良いのではないか。
- 神谷 大介 教授 ・提案したコンペについては毎年ではなく、3年毎に開催する程度が丁度良いのではないか。
・先進地視察ではトヨタのウーブンシティなど見に行ってはどうか。